【　　玖　　珠　　町　　】

令和３年度　全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

１　調査結果の分析

小学校：国語

○　正答数の分布を見ると、１４設問中１１問（正答率７８．５％）以上の上位層の割合が３７．１％で、全国平均と同じである。

○　設問別では、１４問中８問が全国平均を上回っている。県平均では１４問中７問が上回っている。

○　正答数６問以下（正答率５０％未満）の割合が、１７．２％（全国：２０．９％、県：１８．５％）であり、全国・県より数値は低いが、本町の学力向上に係る数値目標の一つである「学力調査において正答率５０％未満の児童の割合を１０％未満にする」は達成できなかった。

○　主語、述語の関係を捉えることや修飾、被修飾の関係についての設問では、全国・県に比べて高い割合になっている。

○　文章全体の構成や展開について、構成の形は捉えているが、その意図の読み取りが全国や県に比べて不十分である。

２　具体的な改善方策

小学校：国語

①　「新大分スタンダード」に基づく授業観察シートを活用した管理職の授業観察の実施
　・授業デザイン力の向上（単元構想力）
　・育成を目指す資質・能力と連動した評価規準の設定

②　国語科の授業における系統的な指導を充実させる。

③　国語科の授業だけでなく、学校挙げて組織的に取り組む体制をつくり、継続的に取り組む。

④　各校に配置している新聞等を活用して、表現の違いによる読み手の受け取り方の違いを実感させる学習活動を仕組む。

⑤　「読解力」の充実に向けて、「ほんラブ」事業を活用して読書習慣の定着を図る。

⑥　ジャストスマイルドリルの積極的な活用をする（補充学習や chromebook の持ち帰り学習）

令和３年度　全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

１　調査結果の分析

小学校：算数

○　正答数分布グラフより、１６問中１３問（正答率８１．３％）以上を見ると、町４６．６％、全国４２．８％、県４１．６％であり、全国・県を上回っている。

○　設問別では、１６設問中１２問で全国平均・県平均を上回っている。

○　正答数７問以下（正答率５０％未満）の割合が、９．５％（全国：１５．８％、県：１５．３％）であり、本町の学力向上に係る数値目標の一つである「学力調査において正答率５０％未満の児童の割合を１０％未満にする」を達成できた。

○　学習指導要領の領域で見ると、「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域において、全国及び県の平均正答率を上回っている。

２　具体的な改善方策

小学校：算数

①　「新大分スタンダード」に基づく授業観察シートを活用した管理職の授業観察の実施
　・授業デザイン力の向上（単元構想力）
　・育成を目指す資質・能力と連動した評価規準の設定

②　町独自で実施している算数確認テスト（年４回）に向けた継続的な取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。

③　町確認テスト問題データベース（町内共有）の活用で定着を図る。

④　ジャストスマイルドリルの積極的な活用をする（補充学習や chromebook の持ち帰り学習）

⑤　chromebook 及びその他のＩＣＴ機器の積極的な活用を活かして、各学校の取組を共有化していく。

令和３年度　全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

１　調査結果の分析

中学校：国語

○　正答数分布グラフより、１４問中１１問（正答率７８．６％）以上の割合は、３５．２％であり、全国平均（３４．５％）・県平均（３６．８％）と同レベルである。

○　正答数６問以下（正答率５０％未満）の割合が、１４．８％（全国：１８．６％、県：１７．３％）であり、本町の学力向上に係る数値目標の一つである「学力調査において正答率５０％未満の生徒の割合を２０％未満にする」を達成することができている。

○　設問別では、１４問中６問が県平均を上回り、９問が全国平均を上回っている。

○「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができる」「事象や行為などを表す多様な語句について理解している」「相手や場に応じて敬語を適切に使うことができる」の設問では、正答率が全国平均・県平均を３～７％上回っている。

２　具体的な改善方策

中学校：国語

１　更なる基礎力の定着・向上のために

①　授業におけるねらいの設定において、ＩＣＴの活用を含めて「考えるための技法」を意識して設定をする。

②　学校挙げて「読む・書く」基礎技能（正確に読む・速く正確に書く等）の習熟を図る取組を継続する。

③　読解力の充実に向けて、「ほんラブ」事業を活用して読書習慣の定着を図る。

④　問題データベースをあらゆる場面で活用する。

⑤　ＡＩドリル「すらら」を活用して基礎的事項の定着を図る。

⑥　教科部会を開催し、指導方法の交流を図る。

２　漢字や語句の定着のために

①　国語科の授業における系統的な指導を充実させる。

②　国語科の授業だけでなく、学校挙げて組織的に取り組む体制をつくり、継続的に取り組む。

③　漢字・語句に対する興味・関心を引き出し、伸ばす言語環境づくりに力を注ぐ。

令和３年度　全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

１　調査結果の分析

中学校：数学

○　正答数の分布を見ると、１６設問中１３問（正答率８１．２％）以上の割合は、町が１３．６％であり、全国平均（２０．７％）・県平均（２０．８％）を下回っている。

○　設問別では、１６設問中２問で全国平均・県平均を上回ったが、残り１４問は全国・県を下回った。特に「関数の意味を理解している」「数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明する」「与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取る」等の設問の正答率が全国平均より７％ほど低い。

○　正答数７問以下（５０％未満）の割合が、３９．７％であり、本町の学力向上に係る数値目標の一つである「学力調査において正答率５０％未満の生徒の割合を２０％未満にする」を達成できなかった。

２　具体的な改善方策

中学校：数学

１　更なる基礎力の定着・向上のために

①　指導事項を明確にした授業づくりを徹底する。

②　町独自で実施している数学確認テスト（年４回）に向けた継続的な取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。

③　問題データベースを活用する。

④　ＡＩドリル「すらら」を活用して基礎的事項の定着を図る。

２　正答率５０％未満の層を減らすために

①　授業形態の工夫やドリルタイム等を通して、個別指導の充実を図る。

②　町独自で実施している数学確認テスト（年４回）に向けた取組及びその結果を生かした補充学習の充実を図る。

③　町確認テスト問題データベース（町内共有）の活用で定着を図る。

④　教科部会を開催し、指導方法の交流を実施する。

【　　玖　　珠　　町　　】

令和３年度　全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

１　調査結果の概要

小・中学校：学校質問紙

本町においては、小学校（６校）と中学校（１校）合わせて調査対象学校数が７校と少ないため、単純に全国平均・県平均の割合と比較して特徴を述べることは難しい面があるが、主なものとして以下の点があげられる。

○　全体的に見ると、肯定的な回答をした学校の割合が県・全国を上回っている項目が多い。

○　全小中学校が、ＩＣＴ機器を活用した授業を積極的に行っている。また、中学校においては、ＰＣを毎日持ち帰らせて家庭での利用が進んでいる。

○　学校運営の状況や課題についても、全教職員間で共通理解をし、組織的な取組ができている。

○　全学校が、全国学力・学習状況調査の分析結果を学校全体で教育活動を改善するために活用している。

２　玖珠町の学校質問紙調査の結果をふまえて

ほとんどの町内小・中学校全校が各質問に対して肯定的な回答をしていること等から、各学校で、組織的に取り組んでいることが見て取れる。

今後の主な課題は、

１　主体的・対話的で深い学びを意識した更なる授業改善

「新大分スタンダード」に基づく組織的な授業改善による授業の質の向上を目指し、児童生徒自らが調べ、整理し、発表・交流する問題解決的な展開の授業を積極的に行う必要がある。また、１人１台の chromebook を含めたＩＣＴ機器の効果的な活用をフロンティア校の取組を中心に充実させていく必要がある。

２　家庭学習の充実に向けた学校挙げての取組の強化

学校挙げて家庭学習の習慣化や充実を図る取組を行うことによって、家庭学習の質・量ともに向上させる必要がある。Chromebook の持ち帰りによる家庭学習に充実を図る。

３　学校間の連携の強化

小中連携、また、小学校間の連携を深め、９年間を通して共通して指導する内容の焦点化や有効な指導方法の共有等をすることによって、教職員の更なる指導力の向上を図りたい。

【　　玖　　珠　　町　　】

令和３年度　全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

１　調査結果の概要

児童質問紙

【基本的生活習慣・自尊感情等に関すること】
○「朝食を毎日食べていますか」に対して 94.0%が肯定的回答をしている。（全国は 94.9%）
○自分によいところがあると肯定的に回答している児童は 79.3%で全国平均より 2.4%高い。
○自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますかに対して、75.9%で全国平均より 5.6%高い。
○地域行事に参加していると肯定的に回答した児童は、60.4%で全国平均より 8.0%高い。
【学習習慣・授業等に関すること】
○家で計画を立てて勉強している児童は、79.3%で全国平均より 5.3%高い。
○新型コロナウイルスの感染拡大で学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたと肯定的に回答した児童は、72.4%で全国平均より 7.8%高い。
○コンピュータなどのＩＣＴ機器を週１回以上授業で使用した割合が 67.2%で全国や県より 30%以上高くなっている。

生徒質問紙

【基本的生活習慣・自尊感情等に関すること】
○「朝食を毎日食べていますか」に対して 95.4%が肯定的回答をしている。（全国は 92.8%）
○「学校に行くのは楽しいと思いますか」に肯定的に回答している生徒は 84.1%で全国平均より 3%高い。
○地域行事に参加していると肯定的に回答した児童は、58.0%で全国平均より 14.2%高い。
【学習習慣・授業等に関すること】
○家で計画を立てて勉強している生徒は、69.3%で全国平均より 5.8%高い。
○友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができているかは、97.7%で全国平均より 1.2%高い。
●「国語の勉強は好きですか」など国語の授業に関する内容で全国平均より低くなっているものが多い。
○コンピュータなどのＩＣＴ機器を週１回以上授業で使用した割合が 88.6%で全国や県より 50%以上高くなっている。

２　玖珠町の児童･生徒質問紙の調査結果をふまえて

○小・中学校において、授業に対して前向きに取り組もうとする姿勢の回答が多く、先生方の「新大分スタンダード」を中心にした授業改善の取組が児童生徒に実感として伝わっている。

○児童生徒のほとんどが、基本的な生活習慣を身につけ、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っていることが見て取れる。

○自己肯定感（自己存在感）を持たせるために、授業や特別活動をはじめとして、学校の教育活動全体の中で、生徒指導の３機能を生かした取り組みの充実が必要である。また、家庭や地域との連携の充実を図ることによって、児童生徒の自己肯定感を高めていく必要がある。

○家庭での時間の使い方について、児童生徒個々の実態を丁寧に把握し、家庭と連携しながら個別に指導することと併せて、学校挙げて家庭学習の習慣化や充実を図る取組（例：家庭学習の方法の指導、家庭学習の記録やチェックの工夫、計画的・意図的な家庭学習用の課題の提示、家庭学習強化週間の設定等）、また、１人１台の chromebook の持ち帰りでの活用を充実させることによって、家庭学習の質・量ともに向上させる必要がある。

○学校における教育活動全体を通して、児童生徒個々の表現力を向上させる取組（例：表現する中身をもたせ、説明する場を設定した授業改善、行事等における表現の場の設定と丁寧な事前・事後指導等）を充実させること、また、互いの考えを聴き合い、認め合う学校・学級の風土を創り上げていくことによって、表現力の更なる向上を目指す必要がある。